

第551号



喬木村公民館：長野県下伊那郡喬木村6664



発行日 2015年 2月13日
 発行責任者 喬木村公民館長 徳
 原 美 穂
 編集責任者 公民館編集部 長
 仲 田 久 志
 印刷 龍共印刷株式会社

公民館楽遊塾第五講座 郷土料理教室

去る十二月七日、公民館楽遊塾第五講座「郷土料理教室」として、おやきづくりを福祉センターにて行いました。

講師には、ふるさと味の会でご活躍中の田中君子さん、松澤みや子さんをお迎えし、懇切丁寧な指導をいただくことができました。飯田下伊那地方では「おやき」というと、小麦粉にヨモギやささげ豆、さつま芋等、好みの具を混ぜ込んで、ホットケーキ風に焼いた物をさしますが、今回は北信地方で作られる本格的なおやきづくりに挑戦してみました。



大人も子どももみんなでおやきづくりに挑戦しました

早速おやきづくりが始まり、今回はおやきのあん(身)として、野沢菜を刻んで砂糖とツナ缶を混ぜて油で

炒めた物と、りんごを細かく切り砂糖を加えて煮てから潰した物の二種類を作りました。

このあんを生地に包むのがなかなか難しく、最初に先生にお手本を見せていただきました。あんの分量が包む生地に比べてはるかに多く、これをどのように包み込むのかも心配でしたが、先生の手さばきは素晴らしい、まるでマジックシヨウを見ているかのよう、たちまちきれいに生地の中に包まれてしまいました。その後、私たちが悪戦苦闘の末、何とか皆上手に包み込むことができました。包んだ後は蒸し器で蒸してから、フライパンで焼き色をつけて出来上がりです。おやきの他にもポテトサラダと野菜スープを作り、



「喬木産の小麦粉を使ったおやき」と「ポテトサラダ」

焼きたてのおやきは芳ばしくとても美味しく、また今回の生地に使った小麦粉は喬木産の物であったため、なお一層味わい深いものでした。親子連れで参加して下さった方もあり、子供さんたちも楽しくおやきづくりができ、また挑戦してもらえたらと思います。参加して下さった皆様のご協力、スムーズに楽しく料理教室ができましたことに感謝申し上げます。(教養部)

学遊館広場 もち花。まゆ玉作り

一月十八日(日)に、こども学遊館で「もち花・まゆ玉作り」が行われました。

昨年同様、伊久間活性化団体三Aの皆さんのご協力により、昔ながらの正月の行事を体験することができました。昔ほどの家庭でも五穀豊穡や蚕の無事を祈って作っていたもち花やまゆ玉ですが、今ではほとんど見られません。親の世代でも知らない人が増えている中、こうした伝統行事を体験することで少しでも地域とのつながりが強くなればと思います。

「片耳の大鹿」 昭和二十五年十月号

「屋久島は鹿児島県にぞくし、直径一キロ半の太平洋上の一孤島である」と始まります。

そこにはまだ人間がふみこんだことのない谷が残っており、樹齢二千年以上といわれる「屋久杉」が昼も暗いほどおい茂っています。そこに住んでいる片耳の大シカの物語です。

「ふるえなからほら穴をながめまわした時暗さになれたばくたちは、いようなものを見てぎくつとした。一メートルとはなれぬほらあなの中に、三十頭に近いシカの群と、十五六頭のサルとが、シカはたがいから

むつたらあかん。ねむつたらそのまま死んでしまおう。」 やつこのことではら穴の中へころがりこみます。落ちていくと寒さにおそれ、体中がふるえてきます。服をぬいで、ぎゅつとしばつてそれで体をこすりあいます。しかし、ふるえはとまりませ

「とつぜん、どすんと、投げ飛ばされたような気がして、はつと目がさめた。三十頭近いシカの群がいっせいに立ち上がった大きな角をふりたてていた」

「訂正とお詫び」
先月発行の公民館報たかぎ二面「未成年生まれ 大いに語る」の記事中、お名前が一部誤りがありました。正しくは筒井絵里奈さんです。お詫びして訂正いたします。

「減私奉公」鬼畜米英などという言葉は若い世代には知らないでしょうが、戦時下日本が聖戦の名の下言論を厳しく統制し、アジアへの侵略を正当化するために使った言葉で、そう遠い昔の話ではありません。歴史的には、世界恐慌の後「もてる国」はブロック経済などの自国防衛を加速し、日本など経済力のない「もたざる国」は取り残され、第二次世界大戦へ突入していった戦争へのシナリオがよみがえります。現在も世界経済が安定しないなか、国だけでなく個人間の格差が広がり、国は保護主義的な個人は自己防衛的な色彩が強くなり、他国や他民族に対する排斥が始まったり、不満の種はそこら中に転がっています。しかし、過ちを繰り返さぬよう、人類の英知で一步一步確実に平和への歩み続ける努力をしていかなくてはならないのです。

椋鳩十ものがたり 32

椋鳩十顕彰会 久保田 毅

からげひシカ狩りに来るようにと手紙をもらったので、犬を連れておじさんたちといっしょにでかけました。

「雨はま横からつづぶてのようになたきつけてくる。風と雨で鼻ではいきがでな。い。寒さとおそろしさのために、がたがたとふるえて歯の根もあわない。こんな中、ぼくはおじさんたちに支えられて歩きますがねむけにおそわれます。「ね

だをすりつけて横になり、サルは人間のようにひざを立ててかたまりあっているのだ。動物たちは、さわぐようすもなく静まりかえっています。

ぼくたちはどうなるのでしょか。冷えきった体に適度のぬくみをえたためか、いい音うっとりした気持ちでそのまま深いねむりにおちていくのです。

「おお、あいつだ。あの片耳だ」こうつぶやくと、次郎吉さんは、ほらあなのすみに投げた銃を取りあげて、すばやく肩にあてると、片耳



みんな上手にできました！

ぼくは、屋久島のおじさん

「ふるえなからほら穴をながめまわした時暗さになれたばくたちは、いようなものを見てぎくつとした。一メートルとはなれぬほらあなの中に、三十頭に近いシカの群と、十五六頭のサルとが、シカはたがいから

だをすりつけて横になり、サルは人間のようにひざを立ててかたまりあっているのだ。動物たちは、さわぐようすもなく静まりかえっています。

ぼくたちはどうなるのでしょか。冷えきった体に適度のぬくみをえたためか、いい音うっとりした気持ちでそのまま深いねむりにおちていくのです。

「おお、あいつだ。あの片耳だ」こうつぶやくと、次郎吉さんは、ほらあなのすみに投げた銃を取りあげて、すばやく肩にあてると、片耳

「訂正とお詫び」
先月発行の公民館報たかぎ二面「未成年生まれ 大いに語る」の記事中、お名前が一部誤りがありました。正しくは筒井絵里奈さんです。お詫びして訂正いたします。

「減私奉公」鬼畜米英などという言葉は若い世代には知らないでしょうが、戦時下日本が聖戦の名の下言論を厳しく統制し、アジアへの侵略を正当化するために使った言葉で、そう遠い昔の話ではありません。歴史的には、世界恐慌の後「もてる国」はブロック経済などの自国防衛を加速し、日本など経済力のない「もたざる国」は取り残され、第二次世界大戦へ突入していった戦争へのシナリオがよみがえります。現在も世界経済が安定しないなか、国だけでなく個人間の格差が広がり、国は保護主義的な個人は自己防衛的な色彩が強くなり、他国や他民族に対する排斥が始まったり、不満の種はそこら中に転がっています。しかし、過ちを繰り返さぬよう、人類の英知で一步一步確実に平和への歩み続ける努力をしていかなくてはならないのです。

「減私奉公」鬼畜米英などという言葉は若い世代には知らないでしょうが、戦時下日本が聖戦の名の下言論を厳しく統制し、アジアへの侵略を正当化するために使った言葉で、そう遠い昔の話ではありません。歴史的には、世界恐慌の後「もてる国」はブロック経済などの自国防衛を加速し、日本など経済力のない「もたざる国」は取り残され、第二次世界大戦へ突入していった戦争へのシナリオがよみがえります。現在も世界経済が安定しないなか、国だけでなく個人間の格差が広がり、国は保護主義的な個人は自己防衛的な色彩が強くなり、他国や他民族に対する排斥が始まったり、不満の種はそこら中に転がっています。しかし、過ちを繰り返さぬよう、人類の英知で一步一步確実に平和への歩み続ける努力をしていかなくてはならないのです。

特集 平成二十七年 新春村長対談

平成二十七年一月八日、公民館本館編集部では、役場の応接室に市瀬村長を訪問、恒例の新春村長対談を行いました。お忙しい中お時間を取っていただき、村長就任から約一年、就任時に掲げた「五つのビジョン」について、今感じている思いや今後の村づくりへの考えを語っていただきました。



新年あけましておめでとございます。恒例の編集部新春村長対談というのですが、市瀬村長さんとの対談は今回が初めてとなります。お忙しい中お時間を取っていただきありがとうございます。昨年一月に村長になられて約一年が経ちました。が、一年経った感じとこの頃はどうか分らないか？

本当にやりたいことがやれているかどうか分らないか？



市瀬村長 就任時の5つのビジョン

- 若者に希望を！
- 高齢者に安心を！
- 産業振興と道路整備
- 安心・安全な社会基盤整備
- 景観を守り、さらなる自然エネルギーの活用へ

就任時に5つのビジョンを掲げていますが、それぞれに対して、「これからどのようにしていきたいか」という点をお聞かせください。



若者に希望を！

まずは「若者に希望を！」についていかがでしょうか。

すでに中原に十五区画の宅地分譲をさせていたのですが、富田にも八区画の若者定住住宅の建設を来年から取りかかせるというふうに思っています。

基本的には、小川・伊久間・阿島の下段は民間活力で開発を進めるべきと考えていて、業者の手の入らない中山間地域に村の資源を投入して、中段地帯の活性化に繋げるようにしていきたいという思いがあります。

富田については、下條米川飯田線のバイパス工事が、若者定住住宅予定地に引っかけようというため、着工が一年遅れてしまっている

ともあるの...

南保育園は今、年少児が三人しかいない状況です。一学年の人数に規定などはありますか？

あります。第二小は、一学年で八人を切る学年が二つ。一年・二年がそれぞれ八人以下だと、決まりで二つ以上の学年を一つにした「複式学級」にしないこと

いけない。複式学級は、例えば村費の先生を入れたりして何とか阻止したいとは思っているが、それにしても三人で学年の体をなすかどうかというところがあるので、そこは真剣に考えていかねばならないと考えています。

子ども子育て支援法というのが国ででき、今までの八時間保育から十一時間保育まで延長が可能ということで、四月から取り組みが始まります。こちらの方も滞りなく準備をさせていたかどうかと思っています。



晴天の下、元気に遊ぶ子どもたち(南保育園)

年々保育園に預けられる未満児が増えていますね。

特に未満児は、自我を形成する大変重要な育成期に当たりますので、できるだけこの時期は、親が子どもを育てることが大切だろうと思います。

小さい頃から親に対するありがたみや、ふれあいやだんだん希薄になっていくという現実から、今以上に親子の関係が崩れてしまう心配があるので、制度としては整えていくつもりですが、親御さんには「できるだけ子どもさんに寄り添って、小さいうちは一緒に過ごしましょうよ」ということを訴えていきたいと思っています。

そういう意味でも、社会を安心して子育てが出来る環境に変えていかなければいけない。このことは、喬木村がどうのこうのというより、国としての大きな責務だと思っています。

高齢者に安心を！

次に「高齢者に安心を！」についてお願いします。

全国的な傾向だと思いますが、独居老人やお年寄りだけで暮らさなければならぬ家が、喬木の場合はすごく増えています。

その人たちが家に閉じこもるのではなく、社会参加をしていくために何が村としてお手伝いできるかということを考えて、通院や買い物、役場の用足し等に、身軽に動ける交通システムを作ろう、公共交通をもう一度見直そう、ということ

取組みをさせていただいています。今は、縦方向の、大島・氏乗から下へという循環線は、六十五歳以上の方は無料でご利用いただいています。が、深刻なのは阿島・小川伊久間の横方向です。その人たちが実際には足がな

く、しかもそこに大多数の独居高齢者・高齢者世帯が集まっているので、これについては来年の四月から、郵便局、役場等を概ね一時間で行けるような仕組みを構築していかうと考えています。

例えば、阿島二回、小川一回、伊久間二回というようにローテーションを組みながら回して、好評でしたら定期運行させていきたいと考えています。



さまざまな年代の人が楽しみながら参加しているスポーツクラブは、健康づくりにもつながっています。

また、喬木で一番大きい疾病を見てみると、生活習慣病にどうしていても行きあたりません。これは食生活と日々の生活を改善する必要があります。運動と食生活の改善をミックスさせたような健康づくり

は健康な体をつくっていただくということ。今年から「地域スポーツクラブ」に地域おこし協力隊の上杉くんが入り、まず

また、喬木で一番大きい疾病を見てみると、生活習慣病にどうしていても行きあたりません。これは食生活と日々の生活を改善する必要があります。運動と食生活の改善をミックスさせたような健康づくり

産業振興と道路整備

では、「産業振興と道路整備」はどうでしょうか。

必ず村の皆さんから出てくるのは、「若者が定着しないのは、村に働く場所がないからだ」ということです。そうすると、村としては雇用の場を作っていくかなければならないが、職安では求人倍率一倍を超えています。しかし就職したい形態を見ても、二次産業の製造業は人気がない。そのため今、広域連合では、この地域をITや研究機関のような知的な仕事ができる場所の集積地にする、ここにしかない何かを作れば、それを旨として若者がこの地に帰って来てくれるのではないかと、このことを研究しています。

とはいえ、喬木も企業誘致に手をこまねいているわけにはいかない、昨年九月の議会で企業誘致のための新しい条例を作らせていただきました。税制上の優遇措置や、上下水道の整備を村が行うという条例を作らせていただいたので、窓口はだんだん準備をさせていた、待っているところでは、



「小さな拠点づくり」で村民のための場所となる交流センター(上)周辺と、広域交流の場所となる阿島橋堰下(下)



景観を守り、さらなる自然エネルギーの活用へ

では最後に、「景観を守り、さらなる自然エネルギーの活用へ」ということではどうでしょうか？

これが一番大きな課題です。景観を守るといのは、ちゃんと田畑や山が手入れされ、見た目にもきれいな状況になっているのが一番望ましいのですが、ご覧のとおり、そこら中に耕作放棄地が出てきて山に戻ってしまうという現状があります。

リニアを降りて最初に見えるのが喬木の景色になるので、「あきれきれいな景色だな」と思ってもらえるような仕掛けづくりをしようということ、里山整備で間伐等をさせていただいています。



リニアを降りて観光客がまず見るであろう喬木の風景 (写真提供: 龍共印刷株式会社)

安心・安全な社会基盤整備

では次は、「安心・安全な社会基盤整備」についてお願いします。

皆さんも感じていると思いますが、一貫道路は街路灯がなくて暗いため、今年のように街路灯を付けようと思っています。

また、各地域で付けていただいている蛍光灯の防犯灯や街路灯は非常に寿命が短いので、来年から全部LEDに取り換えようと思っています。

そして一番は、今、想定外の災害ということを各方

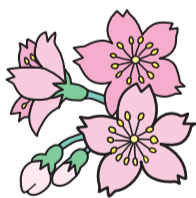


学び坂は、安全な通学路となるよう現在工事中

面で言われています。村ではすでに村内五ヶ所に雨量計を設置して、役場いなから各地域の雨量が観測でき、一定雨量が降るとこちらに情報が入るようになっていきます。それに合わせて、どうしても雨量だけでは測れない部分があるので、今年、村内五ヶ所に「河川監視カメラ」を付けて、川の出水状況も役場の方で確認できる仕組みを作り、想定外ということが起きないような体制を整備しようと考えています。



自然エネルギーの活用については、今研究させていたっているのは、木質バイオを使つたペレットボイラーや、発電の仕組みは作れないのかといったことです。太陽光については公共施設にはすでに全部乗せましたので、今度は福祉センターや中央社会体育館が災害時に停電しても耐えられ



持ち主が手放さず、荒れてしまった空き家だけが現状は多いようですね。空き家を若者などに使ってもらえればいいのですが、なかなか使えるまでには手も暇もかかると思います。

話は変わって、今、飯島町では新しいカフェ等がどんどんできていて、名古屋や東京から来た人に飯島町が助成金を払ってお店を出しているというのですが、喬木村ではそのような話はありませんか？



若い人が村に入ってきてやすい場所が喬木村にも増えるといいですね。では、お時間も来たので、これで対談を終わらせていただきます。今日はありがとうございました。

川まで二キロくらいのトンネルを掘るのに六十億円くらいかかってしまいます。ほとんどが山間部を通りますからね。工事車両が通るようになれば狭い通学路での危険も増え、そちらの対策も必要になりますし。

また、阿島橋界隈の堰下帯を使つて何か交流拠点を作りたいと考えています。こちらも我々だけでは偏った考え方になってしまうので、できるだけ外部の専門機関に流し、都会や近隣の人の目線で「こんなものがあつたら利用したい」という方法と方向性をこれから

三年間かけて研究させていただき、間違いない施設を作つていけるよう計画させていきたいと思います。交流センター周辺の「小さな拠点づくり」は、どちらかというと村民のための場所、阿島橋堰下一帯はこれからの広域交流の場所というようになります。

これを何とかしようと、「新規就農者」を募つて実際に農業を始めてもらっていますが、それだけでは解決しない勢いで放棄地がどんどん増えています。これは今、使える農地の集約化と放棄地をどうやって使うかということを検討させていただいているところです。

二軒に一軒は空き家になると言われています。持主が手放さず、荒れてしまった空き家だけが現状は多いようですね。空き家を若者などに使ってもらえればいいのですが、なかなか使えるまでには手も暇もかかると思います。

るよう、自然エネルギーを蓄えるという方向に行かなければと思っています。また、小、中学校の体育館の更なる耐震化として、建物自体は耐震工事が終わっている、照明器具やバスケットゴールの耐震工事を完了にしたいと思っています。

若い人が村に入ってきてやすい場所が喬木村にも増えるといいですね。では、お時間も来たので、これで対談を終わらせていただきます。今日はありがとうございました。

第33回全国都道府県対抗女子 駅伝で快走！

喬木中学校3年 松澤綾音さん



先月十一月一日に京都で行われた「第三十三回全国都道府県対抗女子駅伝」に、阿島北の松澤綾音さん（中三）が長野県チームの一員に選ばれ、出場しました。松澤さんは八区を走り、区間順位は十一位と健闘しました。八区はアンカーに、つなぐ重要な区間だったため少し慎重になりすぎたようで、「もつと冒険していたら」と少し悔しかったようです。

松澤さんのお兄さんも長距離ランナー。そんなお兄さんの影響もあり、走るのが楽しいようです。

学校に陸上部がないため、普段はお父さんと二人で、天竜川の堤防などを使い距離を決めて練習したり、週に何回か松川にある陸上クラブに参加してコーチのもとトレーニングに励んでいます。

県内の女子駅伝の強豪校への進学を目指し、勉強も頑張っています。お父さん

も「本人も行きたいと言うし、今まで練習も思うよう出来なかったから、高校で力いっぱいやらせてあげたい」と温かい眼差しで話しておられました。

「そろだ、リニア見学に行こう」

過日、公民館主催のリニア見学会が行われました。当日はあいにくの天気となりましたが、目の前を往復するリニアの様子を見ておくことができました。

十二月四日、雪で中央道の諏訪区間が通行止めとなつてきました。大月ICを出て昼食を取り、リニア見学センターへ向かいました。

見学センターに入つてまじ目についたのは、鉄道での世界最高速度（時速五八八kmを出したというスーパーエクスプレス）というイメージと、リニアの歴史等の見学や、磁気浮上走行のしくみを学

習し、リニア走行実験の開始の時間を待ちました。いよいよ走行実験の時間となり、見学テラスへ移動しました。今か、今かと待っていました。リニアはトンネルの中にすごいスピードで入つていってしまっていました。



リニア見学センターにて

から大音響と共に、リニアが私たちの眼下を再び通り過ぎました。見学テラスのモニターに表示された速度は、時速五〇〇km。本当に速く、あっという間の出来事でした。

たかぎ俳句クラブ 新年句会

かるた読む子を取り巻けば華やげり
雪あそびつづて飛び交ふ丘の空
田中 君子
峰の家へ餅となりて除夜の鐘
切切と闇に声上ぐ猫の恋
村山 たか子
背筋伸び八十路の男の師走尽
実南天主無き家守りをり
松葉 孝子
初詣闇の参道竹点し
音がしてポストに明けの年賀状
秦 恭子
車押す日課の散歩冬帽子
元朝の日を拝みある八十路かな
小林 カツ
元旦や湯のみに開く桜花
初夢の夫の半纏姿かな
原 美恵
鳶の空青さ込みいる淑気かな
頑是なき子にも等しくお年玉
砂場 文子
さらさらと川底透きて寒の川
軒下へ鉢植え移す雪催
松尾 萬里子
卒寿なほ三年日記ためらひて
短日の沈む夕日を見送りぬ
下平とみ子
初日出ず八咫の鏡のあばねけり
雪原の樹影をよぎる初雀
吉川 照子
柿吊るす里を斜めに航空路
バス降りる故郷の蜻蛉の高い空
本山 栄信

公民館からのお知らせ

第4回 公民館平和学習会 「満洲のなかの喬木村」

- 日時 2月21日(土) 午後2時～
- 会場 喬木村福祉センター2階 多目的ホール
- 講師 青木隆幸先生(長野県立歴史館 文献史料課長)

満蒙開拓団についてあまり知らないという方や、若い世代の方にもわかりやすく聞いていただける内容となっております。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

公民館本館 編集部員募集！

公民館報の取材・編集を行っている「本館編集部」。喬木村公民館では、編集部の部員を若干名募集します。新聞づくりに興味のある方大歓迎！公民館報の制作をとおして、喬木村を見つめてみませんか。お申込みや「もう少し詳しく知りたい」等のお問い合わせは、公民館事務局までお気軽にご連絡ください。

お問い合わせ先：喬木村公民館事務局
電話…33-2002 FAX…33-3682
メール…kyouiku@vill.takagi.nagano.jp

地域おこし協力隊 紹介

上杉健太

(上杉謙信と「似た名前」と覚えて下さい)
今年4月から活動しております。喬木村地域おこし協力隊の上杉です。今回は私自身のことを中心に自己紹介させていただきます。

- 年齢：31歳(いのしし年)
- 血液型：AB型(ひねくれ者です)
- 出身地：東京都三鷹市(ジブリ美術館のある街。住みたい街NO.1の吉祥寺のお隣です)
- 趣味：①読書(伊坂幸太郎、垣根涼介、池井戸潤などが好きです)②音楽鑑賞(パンク、ポップ・パンクが好きです。お気に入りにはHEY-SMITH、NEW FOUND GROLY、zebraheadなど)③スポーツ(テニス、サッカー、フットサルなど)④スポーツ観戦(何でも！)⑤写真撮影(未熟！)⑥お酒(飲み過ぎてよく怒られます)
- 好きな食べ物：焼き鳥、鳥刺し、とり天(とにかく鶏肉が好き！)
- 座右の銘：自己完結(問題の所在を常に自分の内に置き、自分が行動する)

現在は、『喬木村総合型地域スポーツクラブ』の運営を通じて、スポーツ振興や健康づくりの活動を行っています。スポーツを通じて人と人がつながり、心も体も元気な社会の実現を目指して今後も活動を続けていきます。そして任期終了後には自立して村に残れるように！よろしくお願ひします。



下平美鈴

- 出身地…飯田市(進学・就職で10年ほど京都市にいました)
- 現住所…富田区
- 配属…産業振興課 商工観光係(交流センターにいます)
- 趣味…お箏(琴)を弾いています。三味線も勉強中。ゆくゆくは村内でコンサートをしたいと企んでいます！
- 現在の活動
前職では広告・デザイン会社の営業をしており、お得意先(の商品)をいかに多くの人に知ってもらい、買ってもらうか、ということを考えてきました。その経験を活かし、NPO法人たかぎさんと今年度より取り組んでいる「ふるさと納税の返礼カタログギフト事業」に携わっています。「たかぎふと」と名付け、商品選定から事業者さんとの出品交渉・契約、カタログの作成に始まり、現在は受注対応を行っています。「たかぎふと」を通じて、村内の魅力ある特産品や事業者さん、観光スポットなどを広く情報発信していきたいと思っています。



また、村内のイベントの告知チラシや、商品・団体等紹介のPOPなども作っています。PRしてほしいコト・モノなどありましたら、ぜひお声かけください(▽)ノ

編集後記

二月四日には春分の日を迎え、暦の上では春となったが、今が一年で最も寒い時期である。昨今の今頃は記録的な大雪にみまわれ、交通網がマヒした。昼夜を通して除雪にあたり、建設者の皆様の活動には、心より感謝を申し上げます。

そんな中、報道では除雪に対する準備の甘さが指摘されたりした。都市部では行政に対する苦情の電話が殺到することもあったとか。昔は近所の人たちが力を合わせ、自分たちの使用する道路や地区の除雪を行っていたことを記憶している。自助、共助の心がそこにはあったと思う。

親となった私は、いま自分の子供達に問う。太陽はすべてを平等に照らす。影をもたず。

手間を惜しまず努力していれば必ず温かく足元を照らしてくれると。